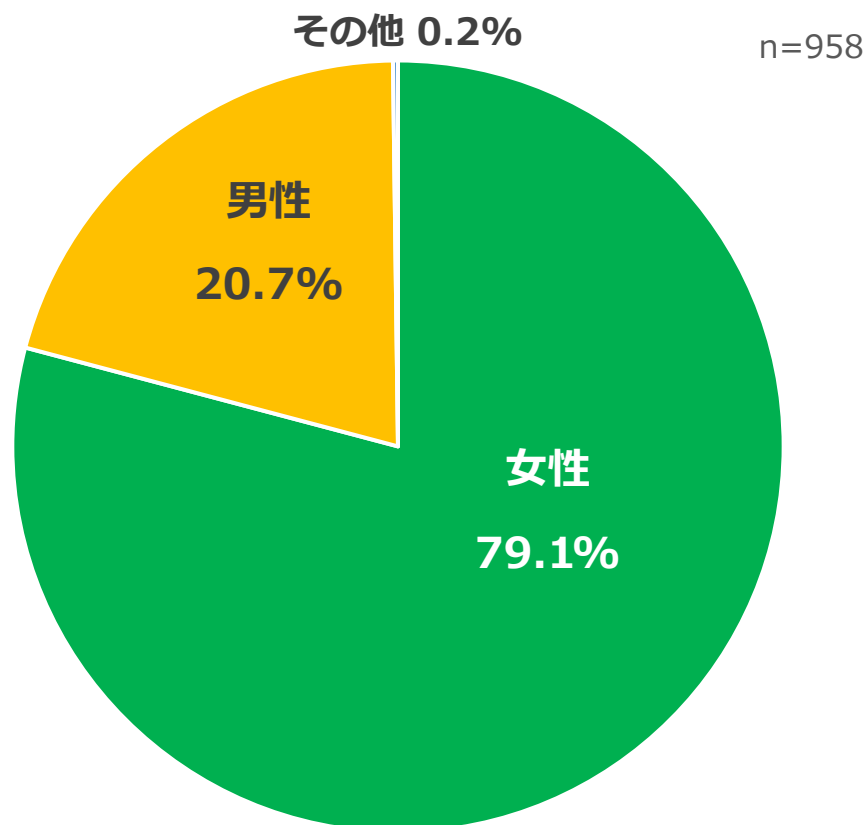




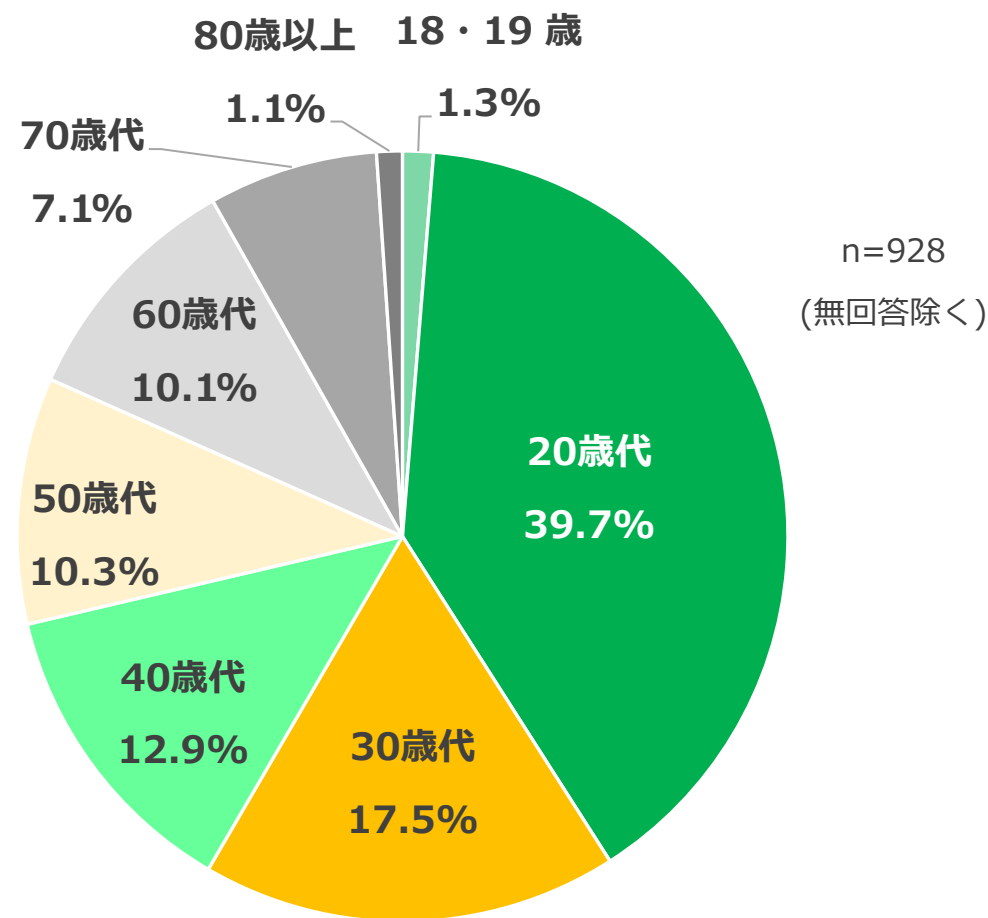
**日本財団ウクライナ避難民支援
アンケート結果
(第7回)**

男女比

※アンケート回答者の男女比。日本財団の支援対象者の男女比は男性：25%、女性75%



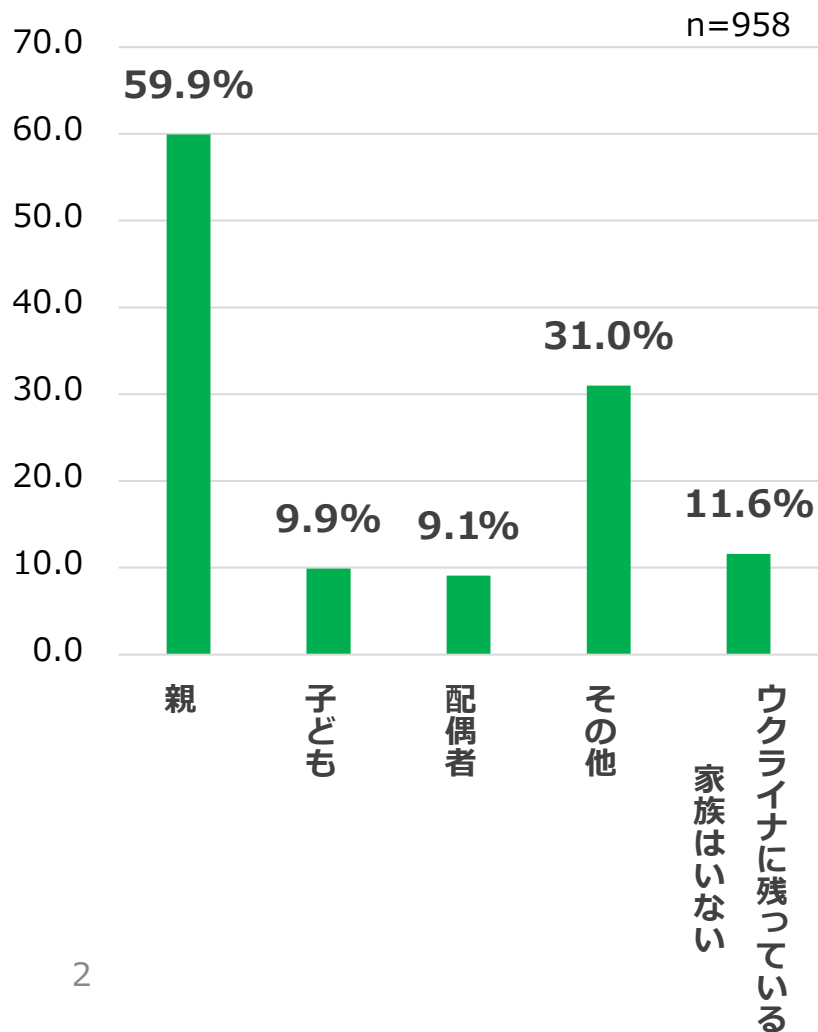
年代



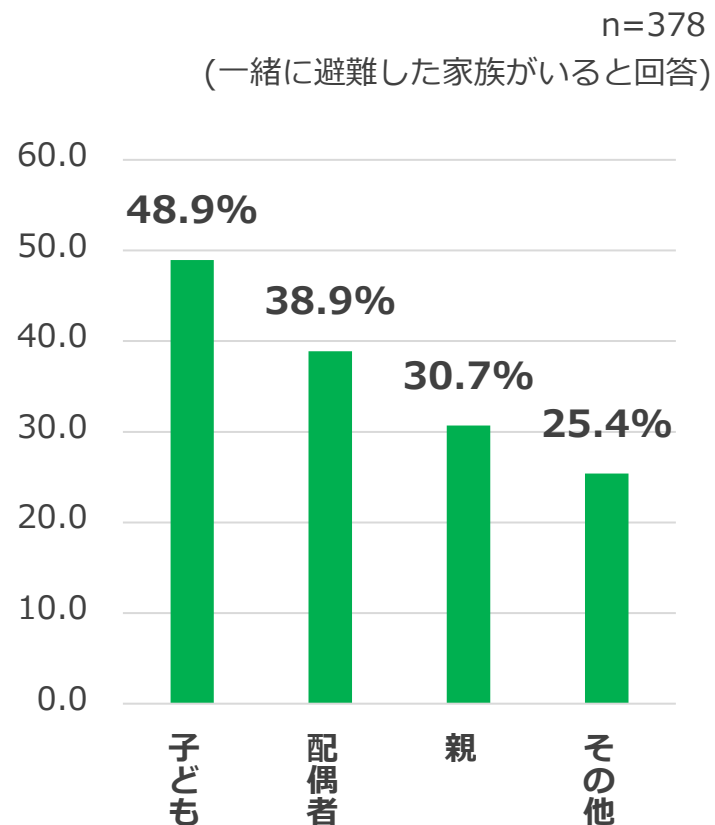
※図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：958人 実施期間：2024年7月18日～8月31日

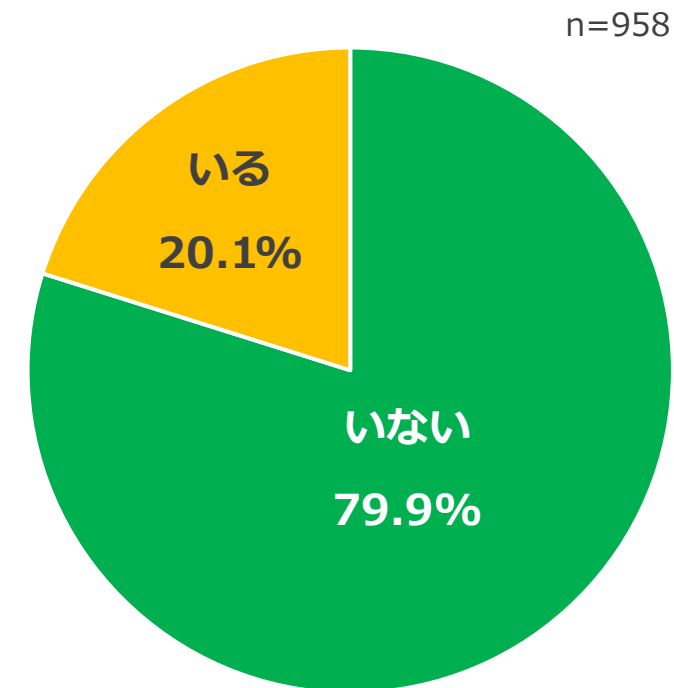
ウクライナに残っている家族



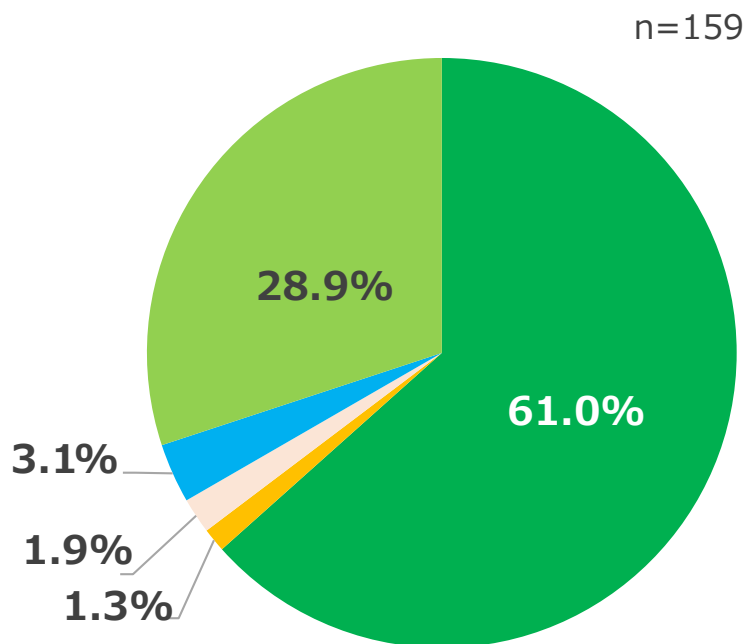
一緒に避難した家族



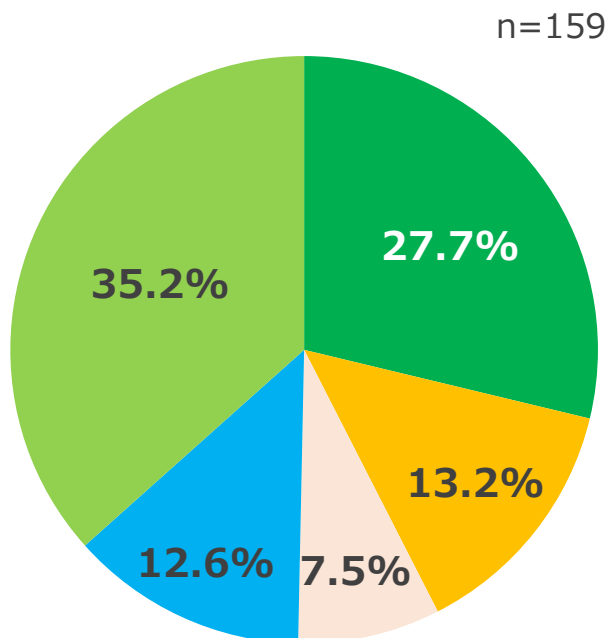
17歳以下の子どもと一緒に避難しているか



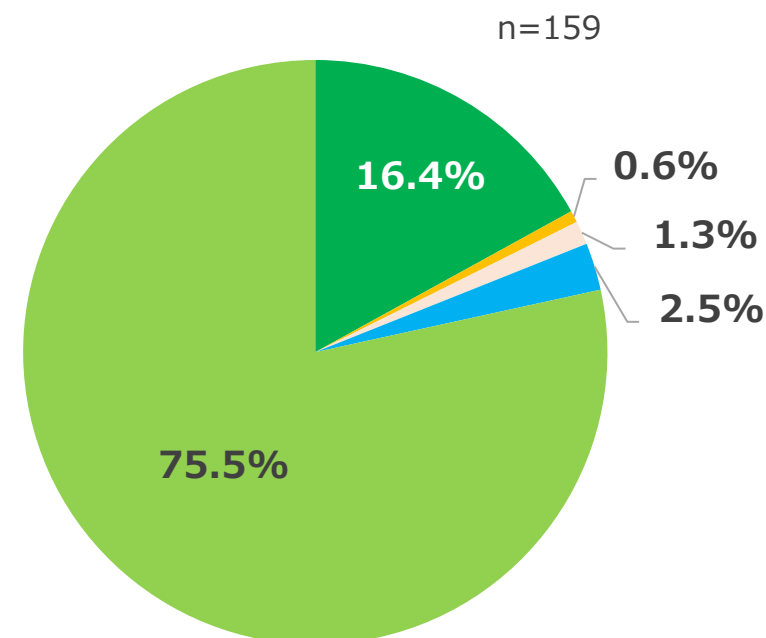
日本の学校



ウクライナの学校 (オンライン)



日本の外国人学校 (インターナショナルスクール等)

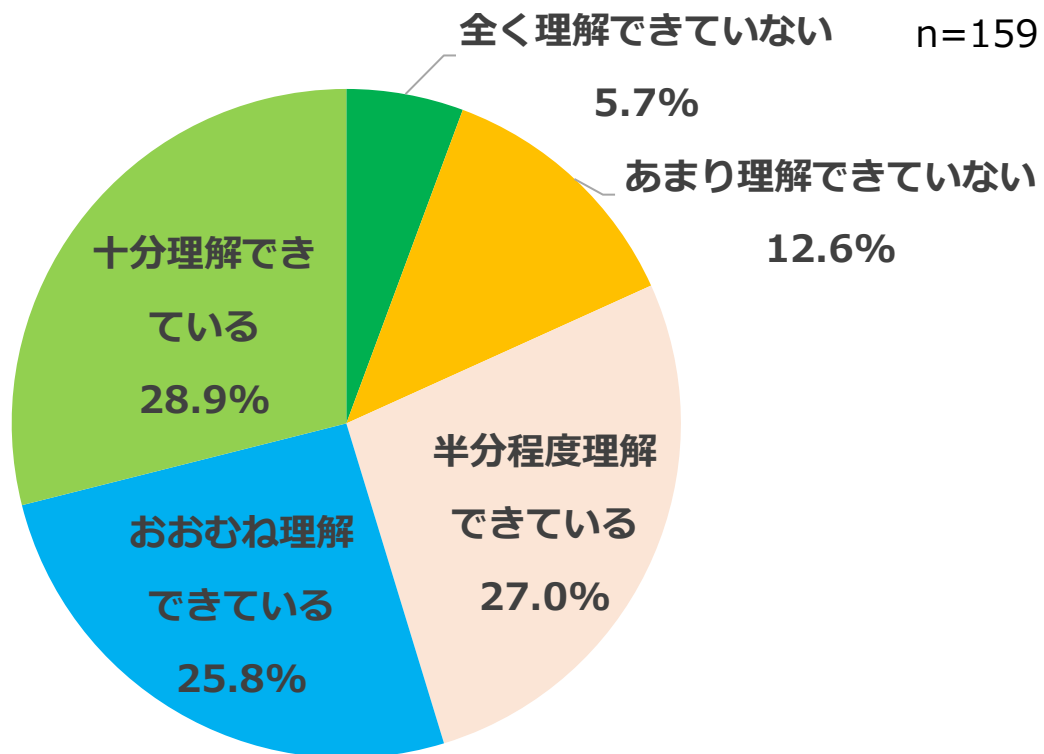


■ 毎日 ■ しばしば (週3~4回) ■ たまに (週1~2回) ■ 特定の教科だけ ■ 教育を受けていない

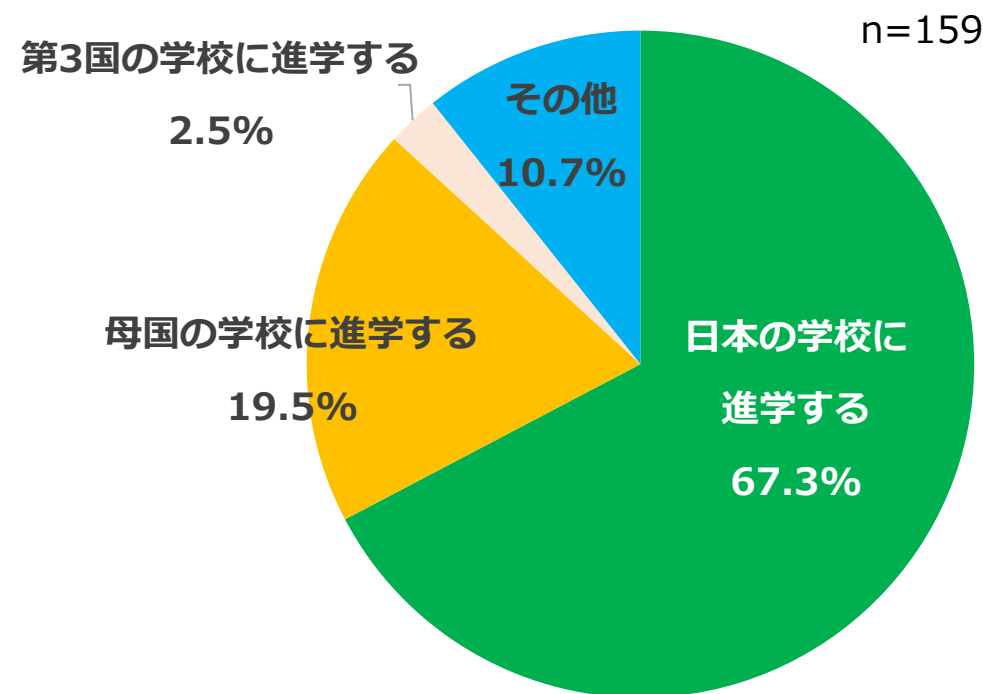
※図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：958人 実施期間：2024年7月18日～8月31日
※上記対象者のうち、子どもが就学年齢（6歳から17歳）の方159人について回答

学校の授業の理解度



子どもの進学（想定）

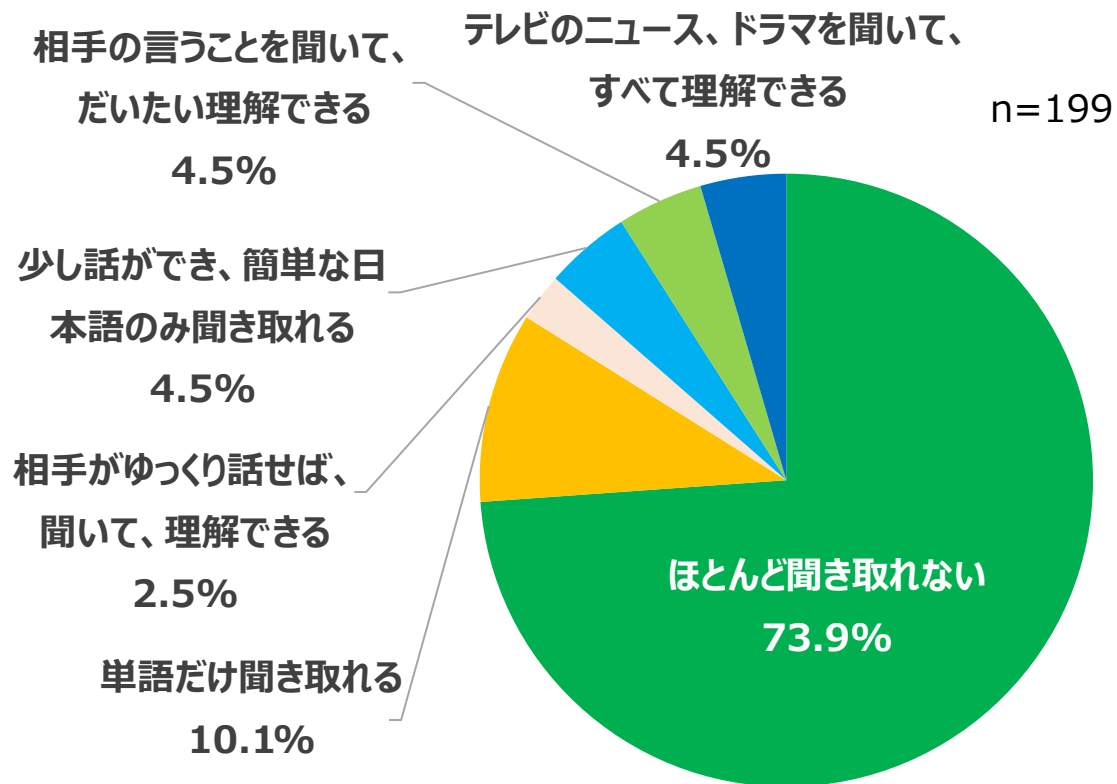


※図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

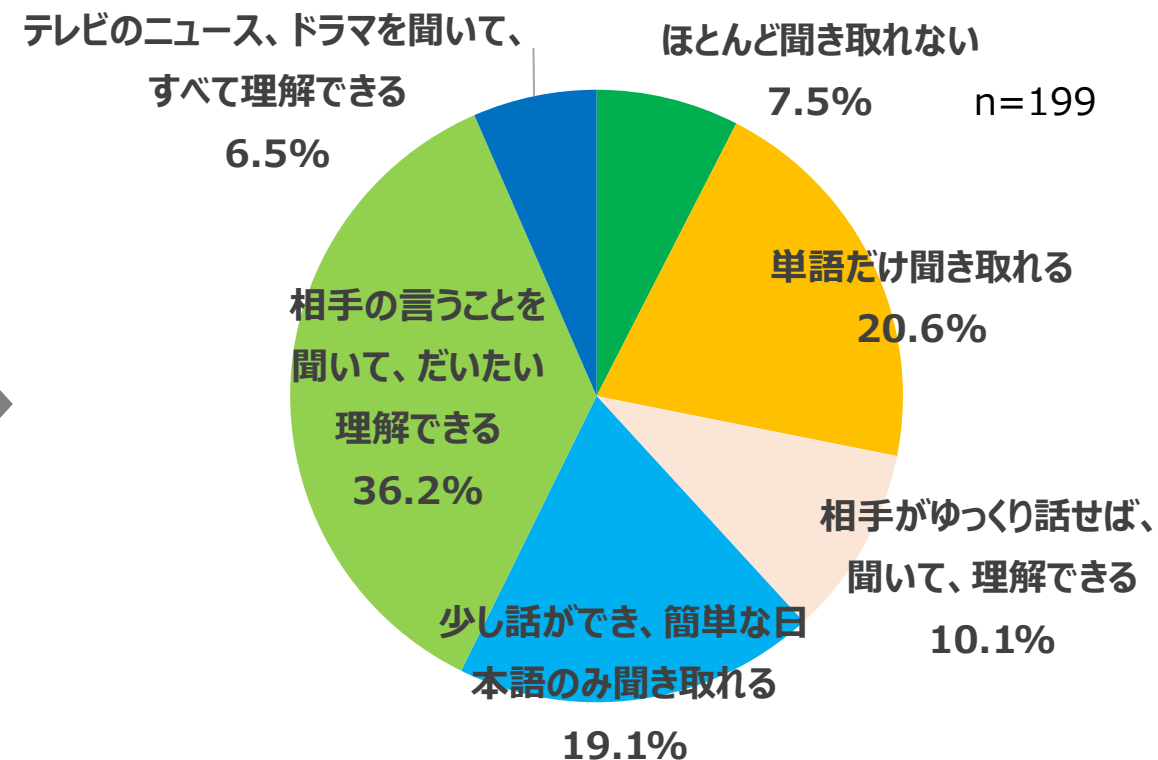
アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：958人 実施期間：2024年7月18日～8月31日
※上記対象者のうち、子どもが就学年齢（6歳から17歳）の方159人について回答

アンケート結果：子どもの日本語能力（聞く能力）

日本に来た当初



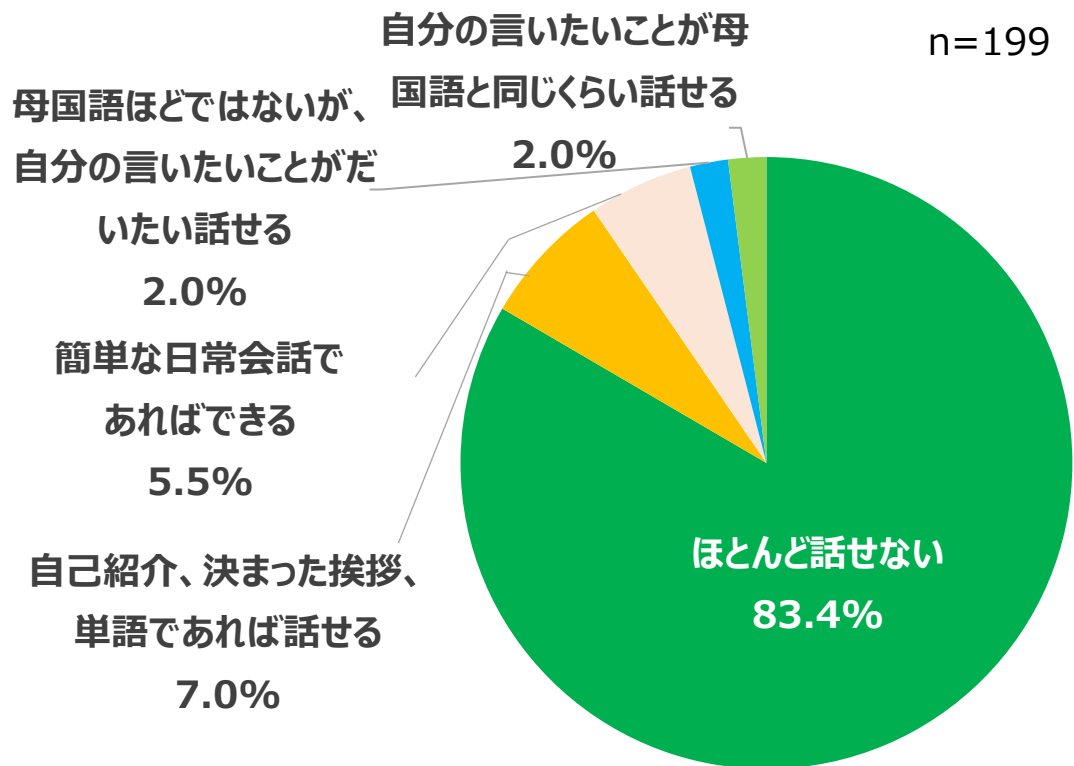
現在



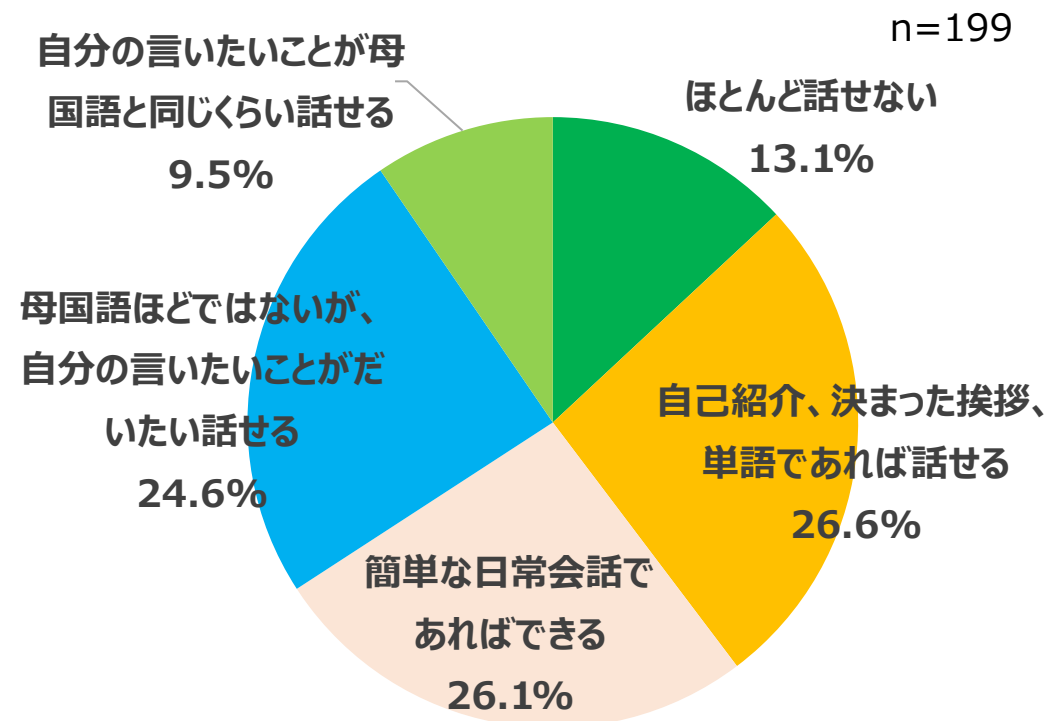
※図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、
合計しても必ずしも100%とはならない。

アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：958人 実施期間：2024年7月18日～8月31日
※上記対象者のうち、子ども199人について回答

日本に来た当初



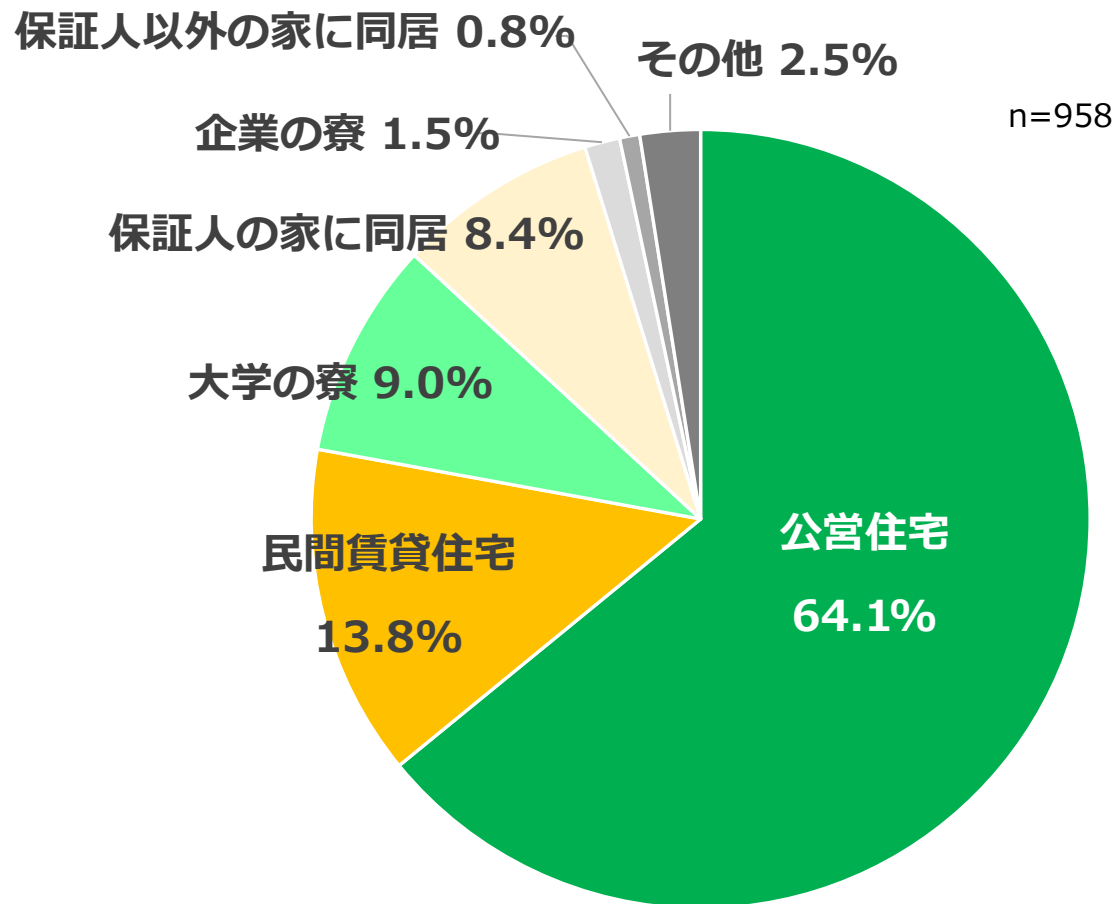
現在



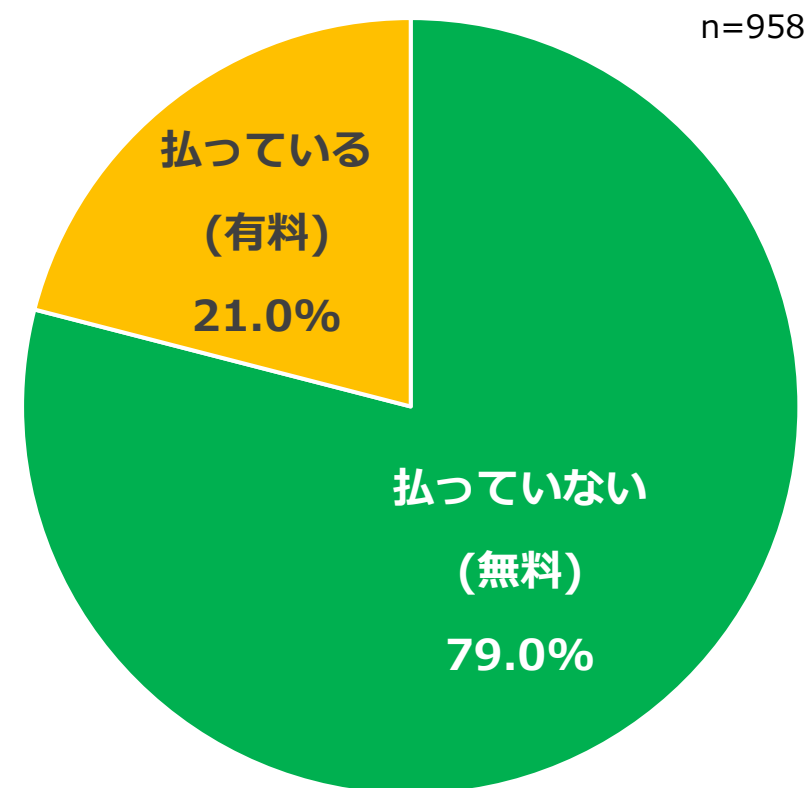
※図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：958人 実施期間：2024年7月18日～8月31日
※上記対象者のうち、子ども199人について回答

どのような家に住んでいるか



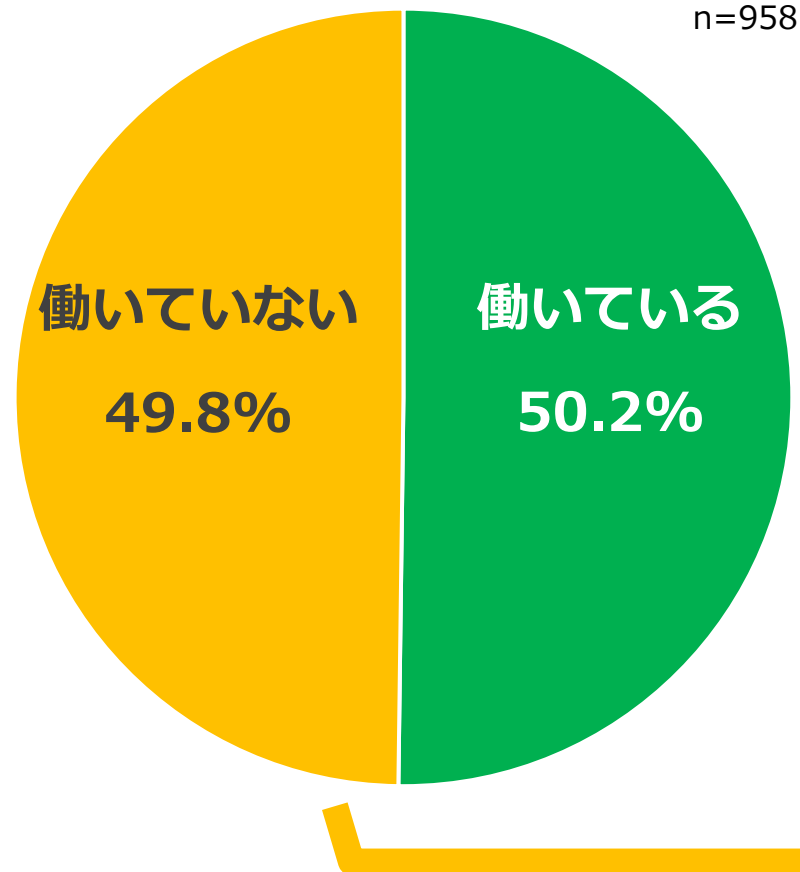
家賃を払っているか



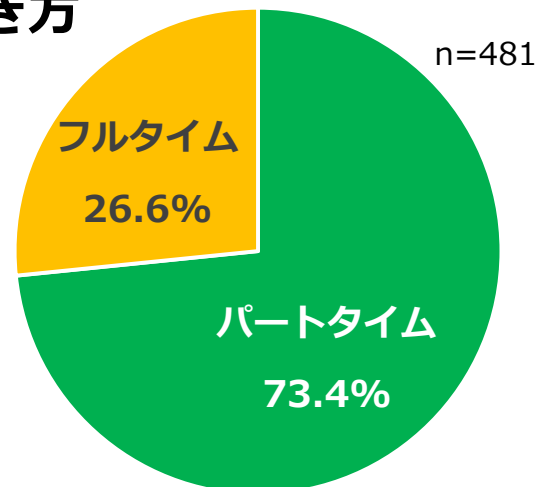
※図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：958人 実施期間：2024年7月18日～8月31日

働いているか



働き方

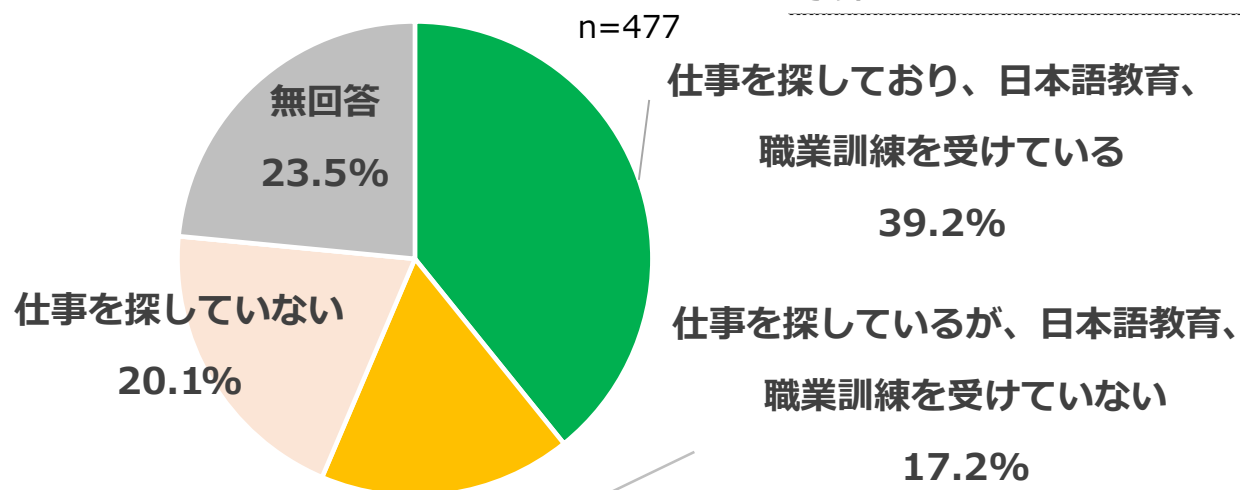


職種

n=481

販売・フード・アミューズメント	30.1%
保育・教育・通訳	11.0%
事務・アシスタント	10.0%
営業	8.7%
ITエンジニア	4.6%
美容・ブライダル・ホテル・交通	4.6%
技能工・設備・配送・農林水産	2.9%
クリエイター・クリエイティブ職	2.5%
医療・福祉	2.1%
建築・土木	1.9%
企画・管理・経営	1.7%
その他	20.0%

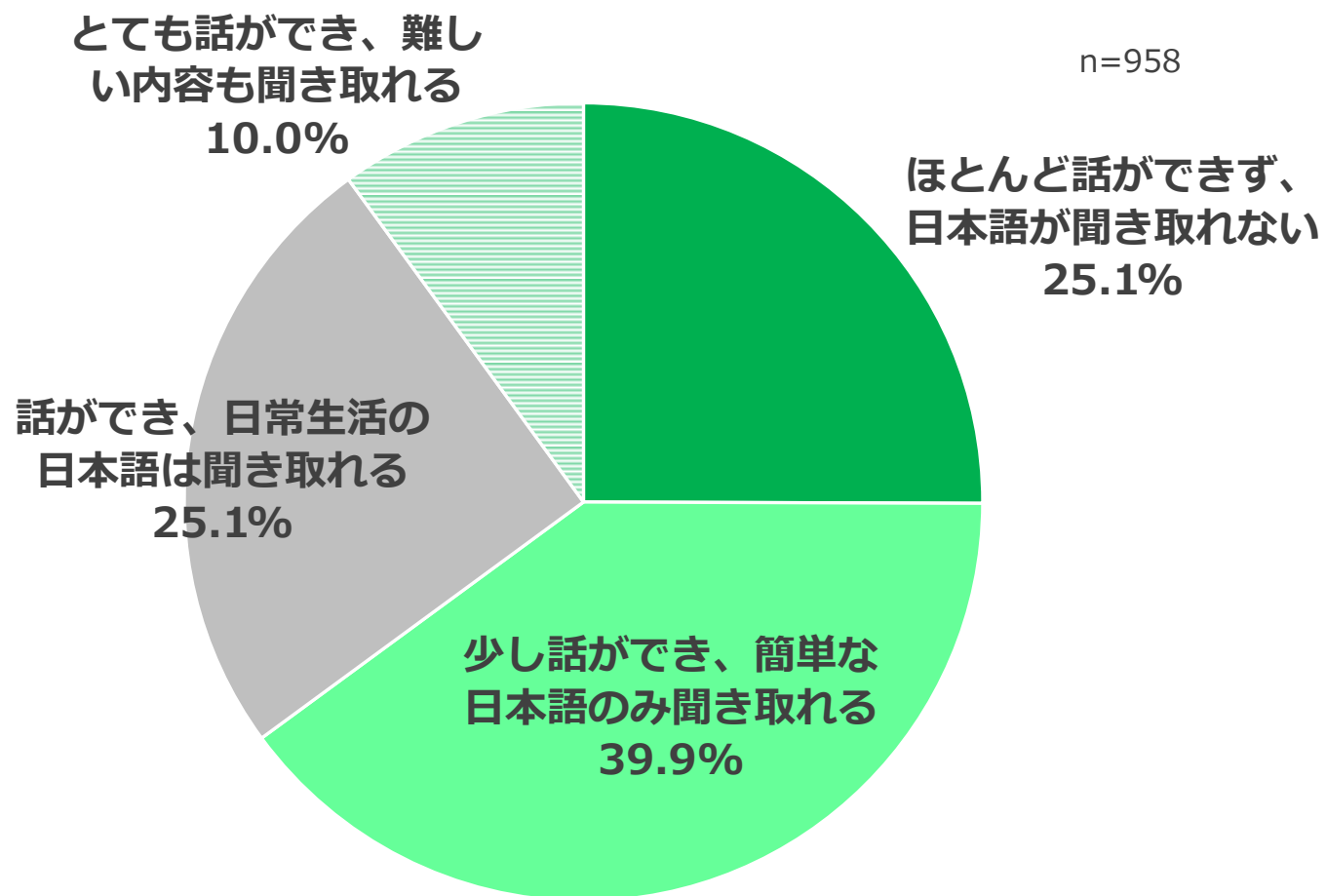
働いていない場合の状況



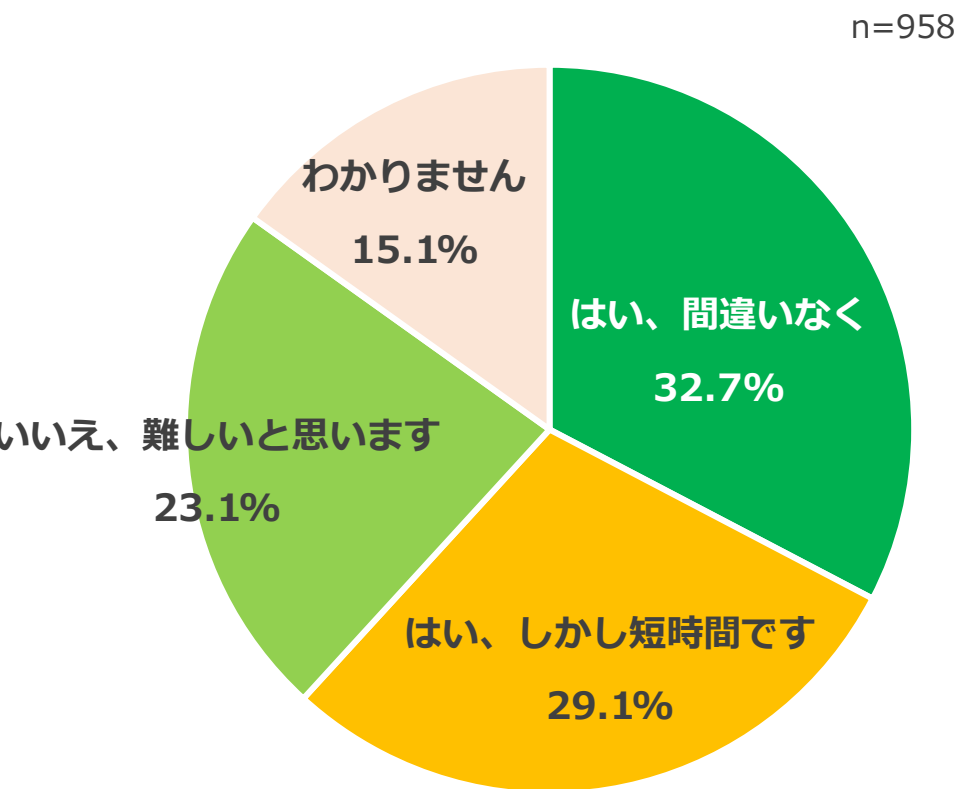
※図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：958人 実施期間：2024年7月18日～8月31日

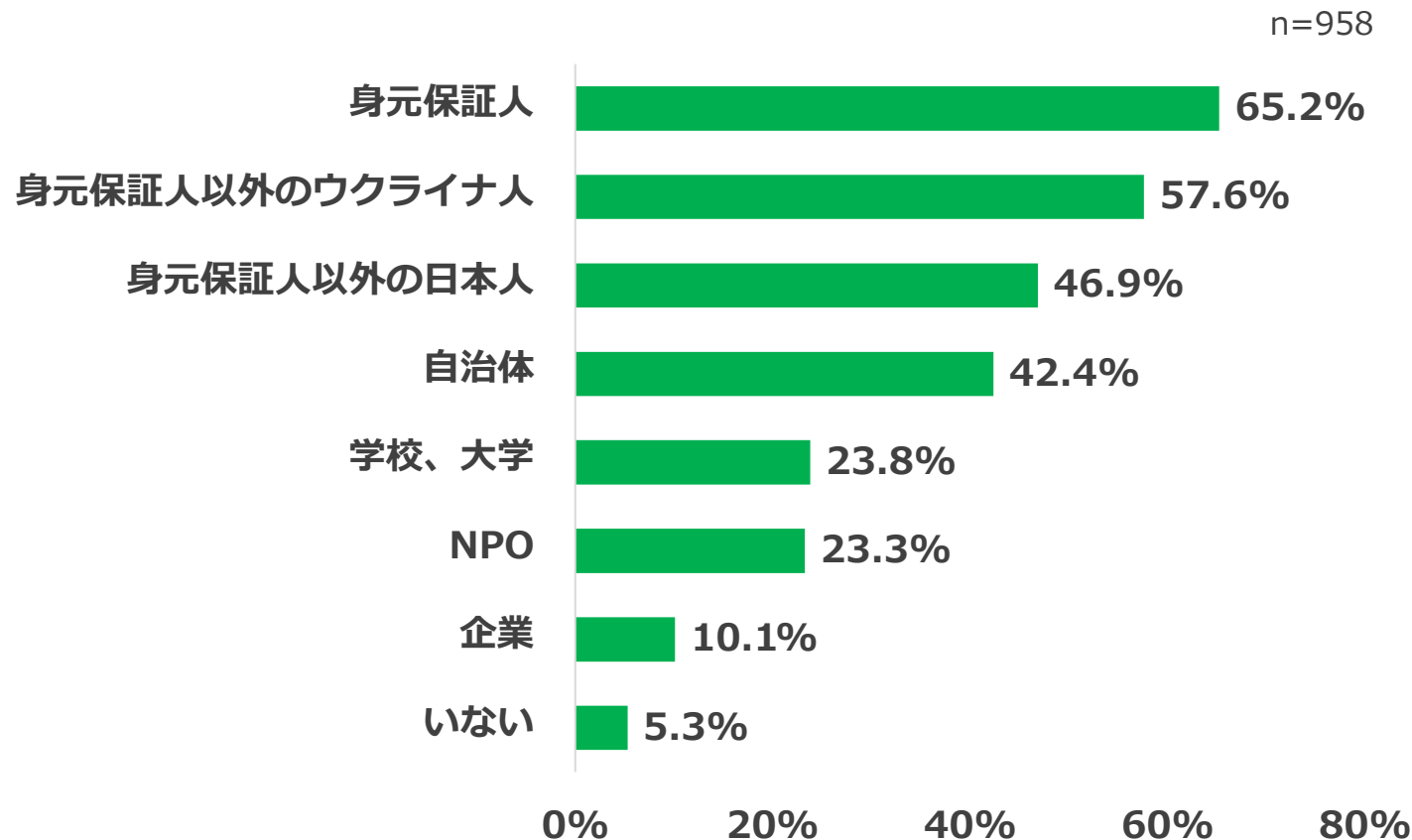
日本語が話せるか



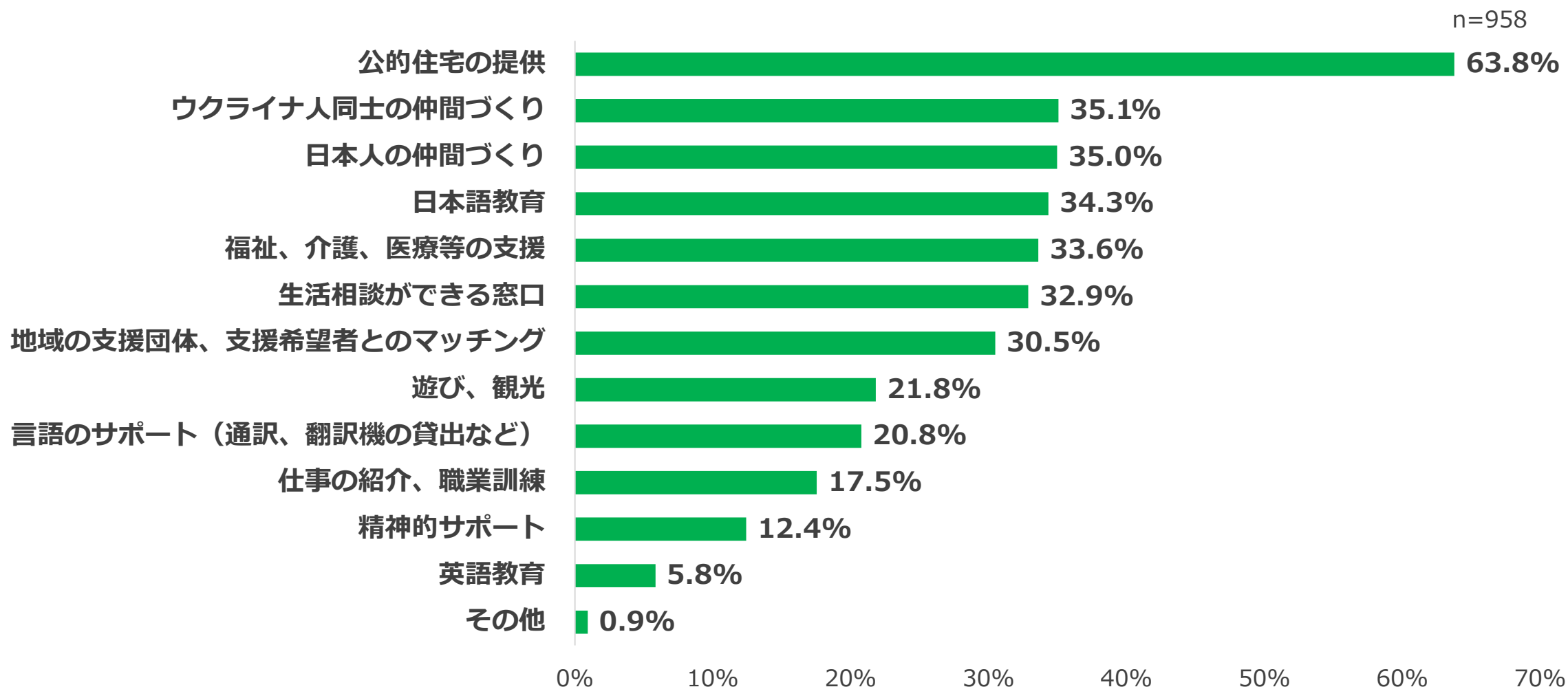
身元保証人にサポートする余裕があるか



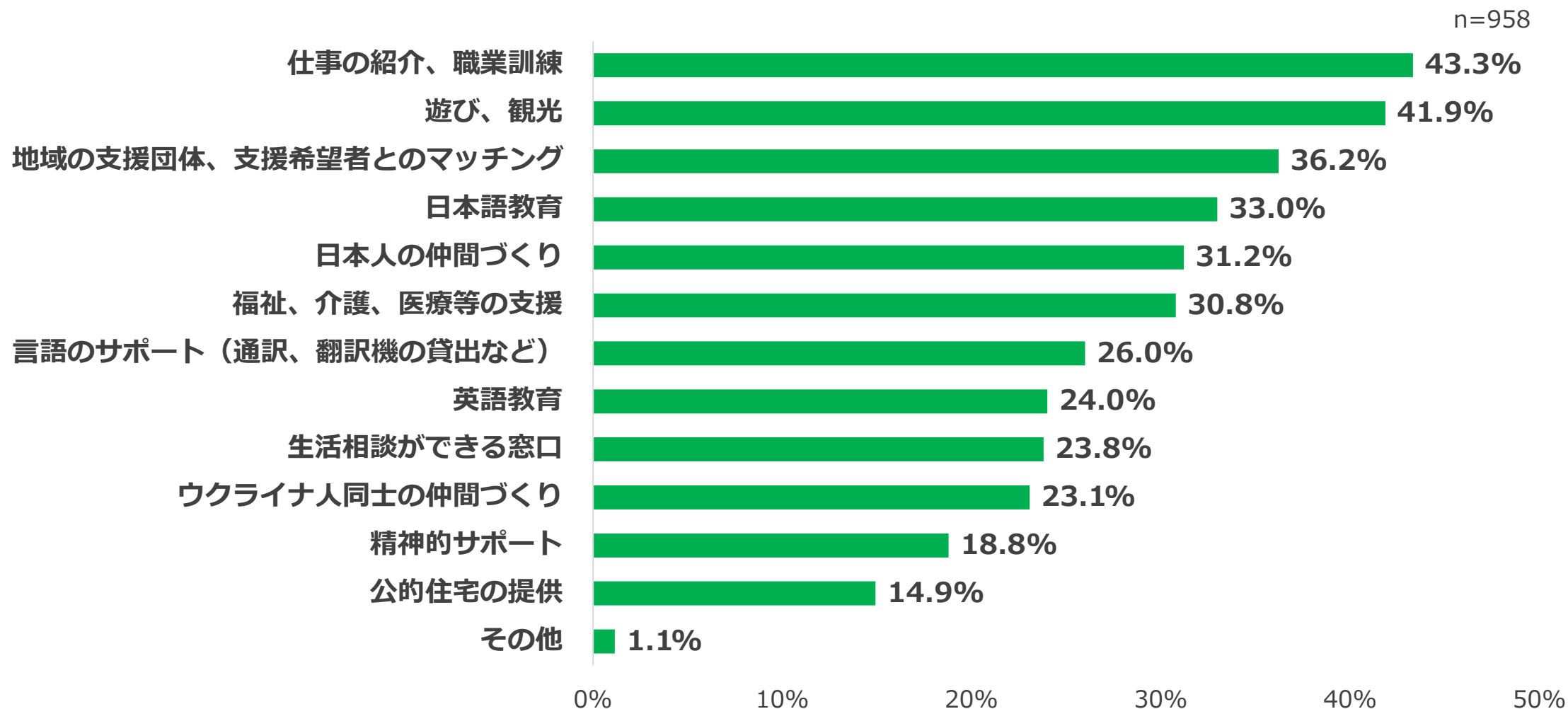
困ったときに相談できる存在（複数回答）



給付金、生活物資の提供以外で、受けている支援は何ですか。

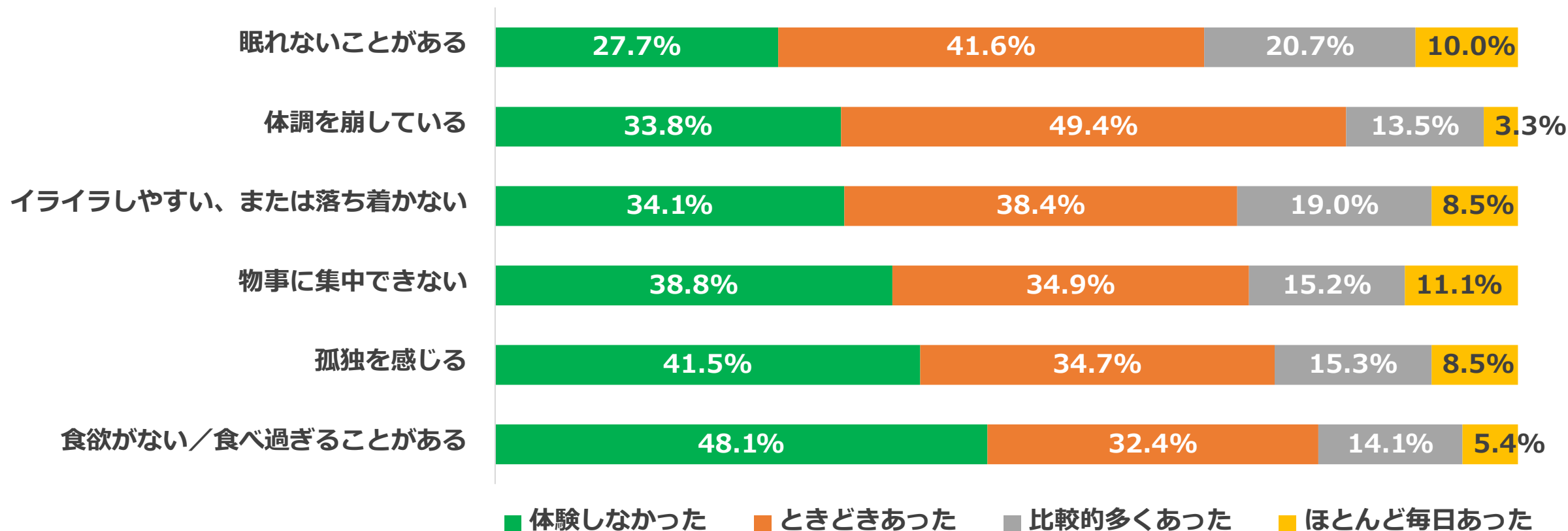


給付金、生活物資の提供以外で、必要な支援は何ですか。



ここ2週間の状況であてはまるもの

n=958



私は日本社会での生活の微妙な違いを学んでいます。言語を学ぶことでこれらの理解が深まります。私はウクライナと私個人の支援に常に感謝しています。ここに来たことを後悔していません。私は日本での将来の計画を立て始めています。（女性／50代／東京都）

私は日本語がどんどん上手になってきています。自分で行動することにも慣れてきて、アルバイトもとても楽しいです。助けてくれた皆さんにとっても感謝しています、早く日本社会に貢献できるようになりたいです。（女性／30代／山梨県）

毎日、語学学校で勉強中。学校のおかげで、私の人生に社会的な関係が生まれました。以前はアルバイトとウクライナ人しかいなかったのです。財団の援助と支援に心から感謝しています。（女性／20代／東京都）

言語を学ぶことで、日本人との付き合いやコミュニケーションがますます上手になっていきます。周りの人が何について話しているのか、看板や商品、広告に何が書かれているのかを理解し始めると、とても楽しい気持ちになります。（女性／30代／千葉県）

日本語学校で勉強して本当に良かったと思います。言語を学び、日本の優良企業で専門分野のIT分野で働きたいと思っています。（女性／20代／福岡県）

現在、言語学習の進歩とともに、人生に関するすべての疑問が、簡単に解決できるようになりました。来月からフルタイムで働きます。（男性／20代／東京都）

私の上の子は幼稚園に適應しており、幼稚園が気に入っており、友達もできて、すでに日本語を話し始めています。私は幼稚園の先生が子供たちに向けて創作するのが好きです。とても親切で日本人の友達もできました。（女性／30代／鹿児島県）

子どもへの支援をお願いしたいと思います。子どもは日本語が苦手で、日常生活や学校でも自信が持てず、悲しい思いをしています。友達や先生のことがよく理解できず、間違いをするので日本語を話すのが怖かったと言っていました。子どもたちに日本語を勉強するための教育プログラムを提供していただければと思います。（女性／佐賀県）

私は日本での生活がとても好きです。家族は仲が良くて幸せです。ただし、日本語の知識レベルが低いため、社会に完全に溶け込むことができません。（女性／60代／石川県）

日本人の友達を作ってコミュニケーションを図ったり、言語スキルを向上させたりする機会がないため、時々とても孤独を感じます。（女性／20代／千葉県）

私たちはウクライナが本当に恋しいです、特に子どもたちは日本語を勉強しているとはいえ、自由なコミュニケーションが本当に恋しいです。（女性／40代／愛知県）

私はここが好きです、ここは安全です。しかし、言葉の壁や仕事を見つけるという問題もあります。孤独感があります。（女性／20代／東京都）

会社設立や個人事業を行う際には、各種免許やその他の書類の登録が大変です。仕事を見つけるのは大変で、2年間ずっと休みなく探しています。（男性／東京都）

とても親切な人々がいる素晴らしい国です。しかし、平均的な日本語レベル（n2～n3）と高い英語レベル（c1）があっても、仕事を見つけるのは非常に困難です。（女性／20代／熊本）